



関西学院大学

キリスト教と文化研究センター(RCC)主催

宗教改革500年記念講演会

# 宗教改革でカトリック教会はどう変わったか



講師：山岡 三治 氏

2017年 10月19日(木) 13:30～15:00

関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス 大学図書館ホール



山岡 三治 (やまおか きんじ)

カトリック司祭、上智大学実践宗教学研究科  
および神学部教授、イエズス会管区長補佐

1948年東京生まれ、慶應義塾大学経済学部、東京教育大学文学部、上智大学神学部をそれぞれ卒業後、1990年グレゴリアーナ大学で神学博士、1994年から上智大学教員。上智大学神学部長、学生総務担当副学長、学校法人上智学院総務担当理事を歴任。現在は上智大学神学部教授・同大学院実践宗教学研究科教授。著書に「カトリック教会の説教」(キリスト新聞社)、「現代世界における霊性と倫理—宗教の根底にあるもの」(共著、行路社)など。

ローマ・カトリック教会は宗教改革から450年後に第二バチカン公会議(1962～1965年)を開き、門戸を広く開け、聖書研究を促し、典礼改革を断行し、教会観を変化させた。それをよく象徴するのが、司祭がミサを捧げるときに会衆に背を向けるのではなく、180度回転して会衆に向かうようになったことである。ミサは聖職者の独占物でなく、会衆(信徒共同体)とともに、会衆の理解できる言葉(現地語)で捧げられるようになった。信徒への聖書の浸透もプロテスタント教会からの影響なしには考えられない。第二バチカン公会議はさらに「対話」についての宣言を盛り込み、50年経過した今日では、プロテスタント教会との対話のみでなく、正教会や諸宗教にまで推し進められている。それは全人類が平和についての責任を自覚し、母なる地球を後の世代にまで伝えるために協力し合うことを広く求めるためであった。